



発行所
熊本日新聞社
〒860-8506
熊本市世安町172
☎代表(096)361-3111
© 熊本日新聞社 2008

号外

ご購入のお申し込み ☎0120-374625

詳しくは熊本日新聞
朝刊をご覧ください

日本人3氏にノーベル賞

素粒子論で業績

物理学賞 小林、益川、南部氏

【ストックホルム7日共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは七日、二〇〇八年のノーベル物理学賞を、素粒子物理の「標準理論」と呼ばれる理論体系構築に重要な貢献をした小林誠・高エネルギー加速器研究機構名誉教授(六四)と益川敏英・京都大名誉教授(六八)、南部陽一郎・米シカゴ大名誉教授(八七)＝東京都生まれ、米国籍＝の三人に授与すると発表した。

2008年のノーベル物理学賞に決まった、左から
小林誠氏、益川敏英氏、南部陽一郎氏

日本人のノーベル賞受賞は、〇二年の小柴昌俊(東京大特別荣誉教授(物理学賞))と田中耕一(島津製作所フェロー(化学賞))以来で計十五人。物理学賞受賞者はこれで七人となる。日本人が共同受賞するのは初めて。理論物理学は日本が得意とする分野で、一九四九年の故湯川秀樹博士、六五年の故朝永振一郎博士に次ぐ受賞。授賞式は十二月十

日にストックホルムで開かれ、賞金一千万円(約一億四千万円)の半分を南部氏、残りを小林、益川両氏が等分する。受賞理由は、小林、益川両氏が「クォークが自然界に少なくとも三代以上あることを予言する、対称性の破れの起源の発見」。南部氏は「素粒子物理学と核物理学における自発的対称性の破れの発見」。都内で記者会見した小林氏は「突然のことで大変驚いている。信じられない気持ちです」と話した。南部氏は素粒子論で半世紀余り、世界をリード。長く米国で研究生生活を続け、七〇年に米国籍を取得した。特に南部氏が提唱した「対称性の自発的破れ」という現象は、本来質量を持たない素粒子が、質量を獲得するための基本的メカニズムとして注目される。